

全国大会初出場で大健闘の準V 空手道全国大会出場の浅沼花南さん

3月21日、東京武道館で開催された第6回全日本少年少女空手道選手権大会(全日本空手道連盟主催)で、達曾部小3年の浅沼花南さんが女子2年生組手競技で準優勝しました。

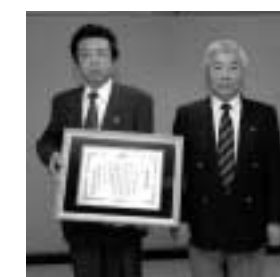
浅沼さんが出場した種目には、各都道府県予選を勝ち抜いた74人が出場。決勝戦で惜しくも敗れたものの、初の全国大会で大健闘の準優勝を果たしました。浅沼さんは「蹴りをもっと出せるようになって、次の全国大会は優勝したい」と意欲を見せていました。



初の全国大会で見事な活躍を見せた浅沼花南さん

農業生産基盤整備などに尽力 宮守村土地改良区が功労者表彰受章

宮守村土地改良区(浅沼達雄理事長)は、第48回全国土地改良功労者表彰の金章を受章しました。



表彰状を手にする照井浩幸事務局長と浅沼達雄理事長

同組合は、組合員らの合意形成を円滑に進め、農地の有効活用などに成果を上げてきたほか、関係機関と連携しながら農業情勢の変化に対応し、生産組合の設立に積極的な取り組みをするなどの功績が認められました。

火災予防に学校・地域が一丸 宮守小少年消防クラブが優良表彰

宮守小学校少年消防クラブ(菊池定雄校長、児童54人)が、『少年少女消防クラブフレンドシップ2007』(全国少年消防クラブ運営協議会主催)で優良な少年消防クラブとして表彰を受けました。

1986年12月に結成した同クラブは、夏・冬休みに地域の消防団員らと夜回り活動が続けるほか、防火作品コンクールに積極的に参加するなど、火災予防に一丸となって取り組んでいます。



表彰盾を手にする代表の照井希望さんと多田裕菜さん(6年)

念願のIT企業が遠野に進出 「プラスプラス」(盛岡市)が立地調印

ソフトウェア開発販売業のプラスプラス(中野晋三社長、盛岡市)が遠野支店を開設することになり、3月26日、立地協定調印式があえりあ遠野で行われました。

同社は2001年12月に設立し、主にインターネット閲覧ソフト「インターネットエクスプローラー」を利用したソフト開発などを手掛けています。

中央通りの奥寺薬局2階に事務所を置き、8月から操業を開始する予定で、3名程度の新規雇用も予定しています。



協定書に調印し、固い握手を交わす中野晋三社長と本田敏秋市長

同社の中野社長は「システムエンジニアやプログラマーなどの人材育成を進め、遠野で日本有数のソフトウェアを開発したい」と力強く抱負を述べました。

市街地活性化に関係機関が連携 市役所内にまちなか再生推進室開設

4月16日、まちなか再生推進室の開設式が行われ、市と関係機関の新たな取り組みがスタートしました。

同推進室は、市民協働による新たな「市中心市街地活性化基本計画」の策定に向け、市・遠野商工会・遠野テレビ・県建築士会遠野支部が連携し取り組むもので、商工会と遠野テレビの職員2名は、市民協働スタッフとして週2回同推進室に勤務します(建築士会は随時協力の予定)。

「中心市街地活性化」に、市と関係機関が一体的に取り組むことにより、効率的な計画策定や事業の実施が期待されます。



本市市長から委嘱状を受け取る河内夕希枝さんと佐々木浩章さん(後方)

宮守地区で放送開始 市内全域の情報サービス充実

遠野テレビが宮守地区でのサービスを開始し、四月一日、みやもりホールで記念式典が開かれました。

式典には関係者ら約百五十人が出席。総務省東北総合通信局の武藤祐二有線放送課長と東北農政局の尾崎明久整備部次長、宮守地域まちづくり会議の浅沼達雄会長らがサービス開始のスイッチを押し放送開始を宣言すると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

宮守町内の二カ所を生中継で結んだほか、コンブリオ銀



関係者らでサービス開始スイッチを押し、放送がスタート

河混声合唱団らによるミニコンサートや、宮守町内の婦人団体による郷土料理の提供など、花を添えました。

宮守エリア拡張事業は、新市誕生後の両地域間の情報格差の是正が早急に必要と新市まちづくり事業の優先事業の一つに掲げ、平成十八年四月から着手。総事業費は約八億七千万円で、総務省の地域情報通信基盤整備交付金事業と農林水産省の元気な地域づくり交付金事業を利用しました。

約百六十七キロの回線距離を、F T T Hと呼ばれる各家庭まで全て光ケーブルでつなぐ方式を採用したほか、最新の音声告知端末機を採用するなど、より高速で高品位な通信環境を提供しています。

また、平成二十三年七月に予定されている地上デジタル放送の完全移行による難視聴対策にも対応し、市民への情報サービスの充実を図っていきます。

父母らの願いが実った教室 待望の花巻養護学校分教室開室

4月4日、県立花巻養護学校遠野分教室開室式と始業式が行われ、児童や父母、関係者らが念願の分教室の開室を祝いました。

障害のある子どもたちはこれまで、市内に養護学校がないために市外の学校へ通学するか、寄宿舎を利用してきました。分教室は「障害のある子どもたちが市内で学べる環境の整備を」との保護者らの要望を受け、市が遠野小学校の2つの空き教室を改装。県の特別支援教育の指定を受け、県内初となる分教室開室が実現しました。



児童と関係者らでくす玉割りをして、念願の分教室の開室を祝いました

市長ひとこと 「こころ」の成果

遠野小学校の空き教室を活用した「県立花巻養護学校遠野分教室」と、社会福祉法人睦会の運営による小規模作業所「多賀の里」が、四月にそれぞれ開設されました。分教室は二名の児童、作業所は合わせて三十名ほどの利用者でのスタートです。新たな一歩を踏み出し、ご家族や関係者が共に喜びあっている姿から、「思いやり」と「心の通い合い」が強く伝わってまいりました。

近年、数値目標を明確に示す「マニフェスト」という言葉が主流になっていますが、課題解決を約束することは大事なことですが、「費用対効果」の視点に偏って評価・議論されてしまうと、大切なものを見失ってしまうのでは?とも思います。

二つの取り組みからは、数字に置き換えることのできない「こころ」の成果の大切さを改めて考えさせられました。(本田敏秋)

農林業情報 クマなどの被害防止に向けて

◎鈴などの音の出る物を携帯しましょう

暖かくなり、野山の動物たちも活発に動き始めています。

春先は、山に餌になるものが少ないことから、農作物や庭木などへの被害が予想されます。

冬眠明けの母グマは、子グマを守るため神経質になり大変危険です。山に入る際は、複数的人数で、音の出るもの(鈴、ラジオなど)を携帯しましょう。

◎電気牧柵の購入補助

遠野地方有害鳥獣駆除協議会では、クマやシカなどによる農作物被害防止のため、電気牧柵の購入補助や貸し出しを行っています。補助は、購入費用の3分の2以内(上限6万円)です。どちらも数に限りがありますので、お早めに申し込みください。

申込・問い合わせ先=市農林振興課集落営農係(☎2111内線114)